

JF大分  
**水産おおいた**  
発行元 大分県漁協

# 2年度通常総会開催

県漁協の令和2年度通常総会が6月30日(火)に水産会館で開催された。

今回は新型コロナウイルス感染症対策として、初めて書面議決での総会となり、上程された15議案はすべて可決承認された。

決算については、税引前当期利益23百万円、当期剰余金12百万円と6年連続黒字を計上することができた。

また、本年度事業計画の重点事項としては、1 新型コロナウイルス問題に関する経済対策の対応(漁業経営安定対策の拡充・強化の要請活動の

実施等)、2 漁協組織の再編(支店及び取次店の合理化に着手等)、3 不祥事未然防止体制の確立並びにコンプライアンスの徹底、4 組合員利用率の向上に取り組みしていくことが決まった。

これまでにない総会となりましたが、職員の皆様方、滞りなく無事に総会が終了しました。長期にわたる総会準備、お疲れ様でした。



2年度通常総会

## 役員補欠

役員補欠として以下の理事が選任された。

(理事)本庄新(員外)、(理事)嶋海盛彦(上入津支店地区漁業運営委員長)

## 令和2年度

## 共済本部総会

令和2年度大分県JF共済推進本部総会が6月25日(木)に書面開催された。

議題の令和元年度活動報告と2年度活動計画は、原案どおり承認された。

本年度の推進本部目標は、普通厚生共済(チヨコー)450件、2,900百万円、生活合共済(くらし)120件、1,500百万円、漁業者老齢福祉共済(ねんきん)50人、国民年金基金(なぎさ年金)8人、乗組員厚生共済(ノリコー)3,345件、16,840百万円、火災共済(カサイ)1,265件、23,200百万円。

前年度に引き続き全戸訪問活動を行い、「全戸訪問支援奨励」と「自動口座振替設定奨励」(新規)を実施する。

また、キャンペーンは、引き続き行うことも共済「未来」推進強化と女性疾病入院特約「りぼん」推進強化を実施する。

## サワラの中間育成

瀬戸内海のサワラ資源を増やすため平成24年度から瀬戸内海海域栽培漁業推進協議会(大阪、和歌山、兵庫、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、福岡、大分の11府県と(社)全国豊かな海づくり推進協会で構成)が共同で種苗生産と放流を実施しており、協議会では種苗放流は継続すべきであるとの意見が各県域から出たが、本年度で終了となった。

本年は、6月4日(木)に44.3mmサイズの9,147尾を昨年に引き続き神崎取次店の神崎漁港の中間育成機に受け入れ、6月11日(木)に7,501尾を放流した。歩留まりは82.0%、放流サイズは66.9mmであった。昨年度と比べ歩留まりは5.1%増、サイズは6mm小さかった。

六月三十日(火)開催の通常総会後の理事会で専務理事に選出された本庄新氏を紹介します。

## 新専務理事

「履歴」  
京都大学卒。昭和56年大分県入り。水産3課



サワラ種苗放流



放流種苗計測

## 編集後記

会議はほとんどWEB会議。人間関係がますます希薄になり、議題とは別な情報交換の場が少なくなっていく。出張で街並みや雰囲気の変化を感じる機会もなくなっていく。これが将来の仕事スタイルだとすれば、味気無く寂しい。

5年間駄文にお付き合いいただき、感謝します。



本庄 新 専務理事

長、農林水産部審議監を歴任。平成29年3月末退職。(一社)大分県漁港漁協専務理事を務めた。

「趣味」  
アジアを旅すること  
うまい酒を飲むこと  
水草水槽を眺めること